

第37回日本霊長類学会大会自由集会企画

「Withコロナ時代におけるサルとの適切な接し方について考える」開催のご案内

このたび、下記のとおり研究集会を開催することとなりました。どなたでもご参加いただけます。参加をご希望の方は、令和3年7月12日（月）までに、参加申込フォームよりご連絡下さいますようお願い申し上げます。

開催日時： 令和3年7月16日（金）16:00~19:00

開催形式： オンライン（zoom）

参加費： 参加無料、要予約

申込方法： 参加申込フォーム（<https://forms.gle/epVHePeBKj4paKHu5>）からお申し込みください。参加者には、後日、オンライン集会へのアクセス情報をお知らせいたします。なお、第37回日本霊長類学会大会ならびに第29回サル類疾病ワークショップに参加登録をされた方は、お申し込みの必要はありません。それぞれの事務局から別途案内があります。

企画趣旨：

COVID-19の流行は研究活動に様々な影響をもたらしたが、霊長類を研究対象とするわれわれ研究者はサル（類人猿を含む）との接し方において早急な現場対応が求められた。本感染症に関する確かな情報が少ない中、手探りで判断せざるを得なかった施設・調査地もあれば、これまでと変わらず調査・研究や業務が遂行できた施設・調査地もあった。本集会では、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代に、また今後起こりうる新興・再興感染症を見据えて、「サルとヒトとの適切な距離」や「調査・研究における感染症対策」について情報交換を行い、今後の課題について整理したい。

プログラム：

1. 「新型コロナウイルス感染症による屋久島、幸島での研究活動への影響」
杉浦秀樹（京都大学 野生動物研究センター）
2. 「ニホンザル農業被害地域における感染症対策と今後」
森光由樹（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所／兵庫県森林動物研究センター）
3. 「剖検を伴うニホンザル調査におけるコロナ禍の影響と対策」
羽山伸一（日本獣医生命科学大学 獣医学部）
4. 「コロナ禍にボノボの調査地で過ごす：コンゴ民主共和国、ロマコ-ヨコカラ動物保護区のエコツーリズム・プロジェクトの事例から」
坂巻哲也（アントワープ動物園基金・ロマコプロジェクト・コンサルタント）

5. 「コロナ禍における動物園の感染防止対策：動物、スタッフ、来園者が感染しないためにできること」
田中正之（京都市動物園 生き物・学び・研究センター）
6. 「コロナ禍における霊長類医科学実験施設のバイオセーフティ対策」
岡村智崇（医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センター）
7. 「動物実験環境下における実験者へのBウイルス感染防御について（仮）」
角崎英志（株式会社新日本科学）

共催：日本霊長類学会保全・福祉委員会、サル類の疾病と病理のための研究会

<連絡先>

藤田志歩（日本霊長類学会 保全・福祉委員会）

電話：099-285-7574

電子メール：fujita@km.kagoshma-u.ac.jp